

NUMAZU

まちの  
感触

vol.2

音

沼津の「音」にまつわる個店の深〜い話

NUMAZU

まちの  
感触

＼ SNSでも情報発信しています /



#沼津まち感

# 五感で感じる

## まちなか商業

沼津の駅前、いつもの日常、いつものお店。買い物途中、ふと、耳に飛び込んできた音。「あれ、このお店、心地良い音がするなあ…」などとなく『音』が気になりまちなかで耳を澄ましてみると、あの店先も、その商品も、この店主の声も、個性あふれる『音』にあふれているではないですか！さらに、五感をフル回転してみると、日常に溶け込んでいたまちの色、音、匂い、手触り、その感触は、今まで見えていなかったまちの奥深い魅力に気付くきっかけとなりました。

今回はそんな『音』をテーマに、沼津のまちなかの特徴ある個店取材。『音』に秘められたひとつひとつのお話には、深い深〜い魅力が詰まっています。さあ、いつものまちとお店を、ちょっと違った視点で楽しんでみよう！

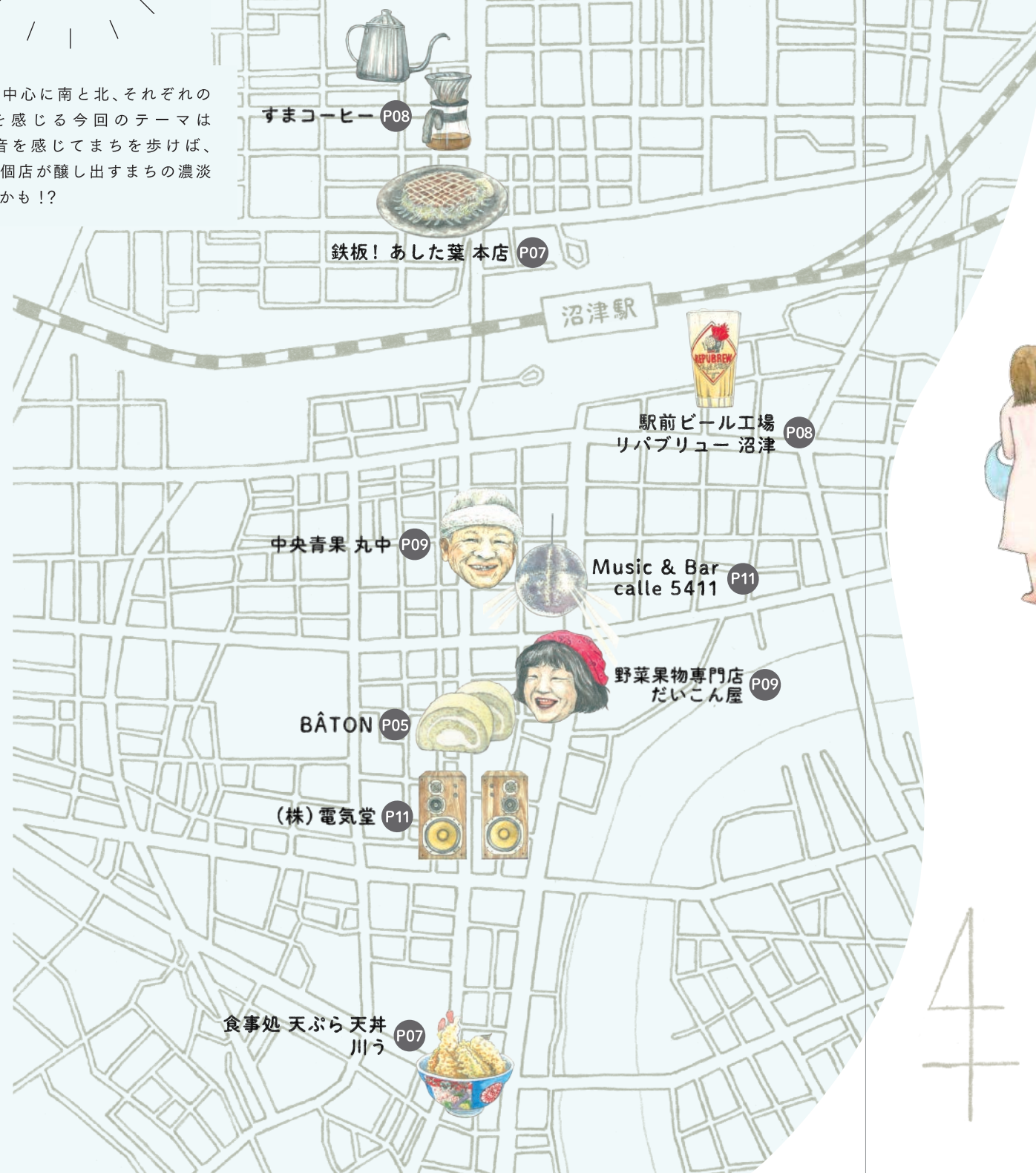


### CONTENTS

- 02 沼津市中心市街地MAP
- 03 特集  
リズムカルな個店でまちの深みを感じる  
～おいしい音～
- 05 BÂTON
- 07 鉄板！あした葉 本店 / 食事処 天ぶら 天井 川う
- 08 すまコーヒー / 駅前ビール工場 リパブリュー 沼津
- 09 景色を変える音  
中央青果 丸中 / 野菜果物専門店 だいこん屋
- 11 世代をつなぐ音  
(株)電気堂 / Music&Bar calle 5411
- 13 地域CREATORのまちなかの音
- 14 編集後記

### NUMAZU CENTRAL MAP

沼津駅を中心に南と北、それぞれのエリアを感じる今回のテーマは『音』。音を感じてまちを歩けば、個性豊かな個店が醸し出すまちの濃淡に気づくかも！？





# その音には 理由がある



## 特集

### リズムカルな個店で まちの深みを感じる

何気なく聞こえるお店の『音』。心地良いと感じるその音には、店主のこだわりや思いから生まれるそのお店だけの音があります。店先や店内に響く音、名物商品から聞こえる音、店主の声……。まちなかで聞こえてくる個性的な音を深掘りしていくと、今まで知らなかったお店の魅力や隠れた物語がありました。そして、十店十音。ひとつとして同じ音はないのです。それが集まり奏でるリズムカルな音のある個店の集合体のまちを、もっと知ってもらいたいと思います。

例えば、まちの洋菓子店。おいしいケーキをいただく時のふんわりとしたかすかな音。そのおいしい音をつくりだすには、その店だけのこだわりやアイデア、思いがぎゅっしり詰まっています。いつもは気にしないような切り口から、あの洋菓子店のお話を聞いてみたいと思いました。





メッセージカードのおいしい音の秘密

『ふわっ、シュッ、「もうひと口!」これぞ、バトンロールの醍醐味です。』

「バトンロール」に付いてくるメッセージカード。「ふわっ=手で掴んだ瞬間の柔らかさ」、「シュッ=口に入れてシュッと溶ける」、「もうひと口!=もっと食べたいおいしさ」そんな場面を音で表現しているのだから。敢えて手掴みで自慢の生地を味わいたい。



彩り豊かで可愛い化粧箱や包装紙は、奥様の千晶さんのデザイン。



ここぞという勝負の時に BÂTONのお菓子!

『食べておいしいをちゃんと届けたい』この想いがお菓子作りの礎となっている。店頭に並ぶお菓子は、どれも自身が胸を張ってベストを尽くしたと言える商品。種類の豊富さではなく、とにかく味で勝負がBÂTON流。「誰にあげても、どこに出しても喜ばれるお菓子を作っています。勝負の時にぜひBÂTONのお菓子を使ってください」と、塩川さん。

種類豊富な焼き菓子は、  
一個ずつでも買えるので、  
自家用のちょっとしたおやつにも。



HAPPYな想いをつなぐ  
バトンロール



ふわっ、シュッ。もうひと口。



2019年6月にオープンしたお菓子の店「BÂTON」。お菓子がHAPPYな想いをつなぐバトンの役割になればという想いが込められている。

オーナーパティシエの塩川雅也さんを料理の道へと導いたのは、あるロールケーキとの出会い。「バトンロール」は、その出会いがベースとなっている。味のしっかりした卵黄に、強めに泡立てたメレンゲをたっぷり加え、つぶさないように丁寧に混ぜ合わせる。強い風味を感じさせる焼き色はつけないよう、低温でじっくり時間をかけて焼き上げ、生地には卵のやさしい風味を出す。焼き上がったばかりの生地にとっと触れると、「シュワツ」と空気と水分の抜ける音が聞こえる。この音が、ふわふわの生地の秘密。「朝採れ卵を使っているんですが、例えば、夏場は鶏の水分摂取量が増えるから白身が柔らかくなるんです。素材の状態に合わせて配合を変えたり、季節によって焼き上げる温度や時間を変えたりと調整をしています」

シンプルだからこそ、納得いくまで。

BÂTON

静岡県沼津市町方町9-1

TEL 055-964-2143

営業時間 10:00~18:00 ※売切れ次第終了

定休日:日曜

<https://www.batonbybd.com/>









「コーヒー」350円～。  
豆に惚れ込んだマスターの藤井和宏さんが「いかにして美味しく淹れるか？」を追求。



## このまちのコーヒーが、まちの日常を奏でる

フレットコーヒー(三島市)から届いた良質の豆を、3種類の抽出方法で味わえる、すまコーヒー。オープンから8年経ち、今ではもうすっかり、まちの風景の一部になった。絶品のコーヒー目当てに訪れる若者がいるかと思えば、ご近所のおじいさんたちが日課のように立ち寄り、好みの味に淹れられた一杯を飲んでいく。それぞれがコーヒーとともに、思い思いの時間を過ごしていくのだ。心地よく流れる音楽は、大半が常連客からの贈り物。お客さんと交わされる挨拶や会話、豆を挽く音、エスプレッソマシンの音、ミルクを泡立てる音…。すべての音がBGMとなって、味わい深い雰囲気を作り出している。

静岡県沼津市高島町27-2 TEL なし  
営業時間 7:30～18:00 定休日:水曜  
<https://sumacoffee.jimdofree.com/>  

すま  
コー  
ヒー




沼津ブランドに認定された「キャベII」  
638円(写真手前)は、望月家伝統の味。  
写真奥は「富士宮やきそば」638円。



## 店の元気な音が、いずれ「まちの音」になっていく

リコー通りの入口に看板を掲げる鉄板焼店「あした葉」。縄のれんをくぐると、鉄板とコテが軽快にぶつかり合う音や、鉄板の上で食材が踊る音が聞こえてくる。テーブルに目を移せば乾杯の音と、お客さん同士が笑い合う声。店内には疲れた心が癒やされ、食欲をそそる音が満ちている。祖父の代から市内で飲食業に携わる社長の望月大樹さんは、「『店づくりはまちづくり』なんです」と話す。「個店が元気な音を出し続けられれば、いつかあふれ出してまち全体が元気になります。まちに必要とされる店でありたいですね」。その熱い心意気が、これからも沼津の元気をけん引し続けてくれることだろう。

静岡県沼津市高島町21-1 TEL 055-922-7784  
営業時間 17:00～25:00 (フードL.O. 24:00、ドリンクL.O. 24:30)  
定休日:無休  
<https://www.teppan-ashitaba.jp/> 



鉄板！  
あした葉  
本店



ビールはハーフパイント 710円～。  
常時20種類のうち4種は定番で、新しいビールが週1回生まれている。

## ビールの弾ける音がつなぐ、素敵な交遊

ビールの醸造所にレストランを併設した、「ブリューパブ」というスタイルの店。沼津を拠点にクラフトビールとその文化を発信している。地下に降りると、そこはまるで秘密基地。日ごと夜ごと、ビールと食を愛する感性豊かな大人たちが集う。グラスを合わせる音が聞こえる場所に、新しい出会いが生まれる。初対面でもビールを介せば、十年来の友達のように話が弾むという。醸造タンクの中でフツフツと音をたてながら醸し出されるビールのように、店内では人と人の出会いが会話によって成熟していく。そして、そこから文化が生まれる。沼津生まれのビールは地元の文化を育て、地元を愛する人と人をつないでいくのだ。

静岡県沼津市大手町2-1-1 ポルト沼津地下1階 TEL 055-939-8877  
営業時間 火～金曜 17:00～23:00、土・日曜・祝日 13:00～23:00  
定休日:月曜(月曜が祝日の場合、火曜休み)  
<https://www.repubrew.com/>  

駅前ビール工場  
リパブリュー  
沼津



「天井」1,200円。創業から継ぎ足してきた秘伝のタレで味わう。

川う  
食事処  
天ぶら  
天井

## 沼津っ子の歴史が詰まった老舗の味

大正13年創業の歴史ある天ぶら店だが、格式ばらない気楽な雰囲気が魅力。長年の感覚で、素材にとって最適な温度と揚げ時を見極めるといふ。「基本を忘れず、ブレないのが長く続く秘訣。沼津に生まれて育ってきたから、この地でやり続ける。それだけだね」と、店主の川口隆久さんは笑顔で語る。ごま油を使わずサラダ油で揚げる天ぶらは香り高く、サクサクッと軽快な歯ごたえ。親子代々で通う常連客も多い、地元の味だ。店の窓から沼津夏まつりの打ち上げ花火が見えるのも魅力のひとつ。花火の重低音のハーモニーと天ぶらの軽快な音が味わえるのは、祭りの2日間だけ。地元の味と地元名物のスペシャル・コラボレーションだ。

静岡県沼津市新町403 TEL 055-962-0276  
営業時間 11:30～13:30 (ごはんが終わり次第終了)  
※夜は宴会のみ営業(要予約)  
定休日:日曜



# 景色を変える音

いつもおなじみの元気な呼び込みの声。沼津の商店街には、その声でまちの景色を彩る素敵なお店主がいます。その音（声）も、まちの深みそのものなのです。

はい、いらっしゃいませ！



薫さんのトレードマークの「タオルハチマキ」。ハチマキを締めると自然と気合が入るのだとか。

## 沼津仲見世商店街



## 人が心を通わせる、商店街に響く声

“仕入れは品質第一”をモットーに、地元の新鮮野菜と果物を取り扱う「中央青果丸中」。店主の横山薫さんの呼び込みの声は、沼津仲見世商店街に活気をもたらす。「何か困ったことがあったら八百屋さんに行きなさいと子どもに話していますと昔、お客さんから言われたことがあります」と笑顔で話す。信頼関係があるからこそ、昔ながらの人付き合いがまちなかに存在する。お店と地域を結ぶ糸口になっている呼び込みの声にぜひ耳を傾けてみて。

### 中央青果 丸中

静岡県沼津市大手町5-7-1 TEL 055-963-1456  
営業時間 9:00～18:15 定休日:水曜

<https://www.numazu-nakamise.jp/shop/marunaka/>



お客さんとの会話にはヒントがいっぱい！より良いサービスを目指し、常にチャレンジを忘れない。

## 沼津新仲見世商店街



## お客様との大切なコミュニケーション！ 声かけは元気の素！

海野隆一さん、令依子さんご夫婦が営む「だいこん屋」は、平成16年のオープン以降、1品購入でも10品購入でも変わらない対応をと、お客様1人1人を大切に接客を続ける。元教員の令依子さん、「一緒に働いていた頃より、なお一層元気だね！って元同僚から言われたんです。声に魂が宿る、そんなふうになっています。声の聞こえない商店街はなんだか寂しいですね。声かけて元気の素かも！」チャーミングな笑顔もお店の魅力。

### 野菜果物専門店 だいこん屋

静岡県沼津市大手町4-5-9 TEL 055-962-0031  
営業時間 9:00～18:00 定休日:日曜・祝日の月曜



ファンの多い「焼き芋」もぜひお試しあれ！

いらっしゃい！

「声かけを通じて、商品・お店の良さを伝えるのが私の使命だと思っています」と令依子さん





# 世代をつなぐ音

まちなかで長年、沼津の音文化を支えてきたお店。  
昭和、平成、令和… 今も沼津の音楽好きたちはこの場所へ訪れている。



## 商店街の地下、 音楽は今日も鳴り続ける

「calle 5411」の店名は、オーナーの山賀裕二さんが好きだというラテンジャズの映画『CALLE 54』と、店の番地が「5-4-11」ということに縁を感じて命名した。オープンから10年、地元では「DJ道場」とも呼ばれ、店内のDJブースで愛好者たちが日々DJテクニックを磨く。「同じ曲をつないでも、その時のボリュームや客層、店内の空気も違うから、同じミックスなんて存在しない。音楽も一期一会なんです」と山賀さんは話す。今は、コロナ禍をアイデアで乗り越えようと、この時代に合ったイベントや企画を発信している。「店に一人で来る方も多いです。昔、ジャズ喫茶に通ってた人からDJをめざす若者までいろいろ。地下にある店ですが、一步を踏み出してもらえたら」。



Music & Bar calle5411 オーナーの山賀さん。  
棚には自ら厳選した酒、とくにラム酒は常時10種類以上あるそう。



## 色あせることなく、 良質な音は広がる

アーケード名店街の「電気堂」は、開店から60年を越えるオーディオ専門店だ。店内には代表取締役の中川繁晴さんがレストアしたアンティークのオーディオ機器のほか、ジャズやクラシック、昭和歌謡のレコードとCDが3階までずらっと並ぶ。「私が、なぜ1950〜60年代のクラシックやジャズが好きかというと、当時の録音技師の仕事ぶりがすごいから。若い人は知らないだろうけど、レコードには楽曲の評論や演奏者の解説のほかに、録音年月日や録音技師の名前が載っているものもある。レコードって情報がたくさんつまった読み物なんです。それが世の中に何千何万と存在するんですよ」と言われても、高尚なイメージが…。おらずおと伝えてみると「ジャンル、楽曲、演奏者、機材、何に対して興味を持つかは人それぞれ。こうやって話をしながら私も新しい音楽の世界を知る。お客さんと話して知識を深めるのが楽しいんですよ」と中川さんは笑う。

オーディオで試聴も  
1960年代のスピーカーでレコードの視聴もできる。空間ごと音に包み込まれる音楽体験をぜひ。



店内では中古レコードも販売。  
歌謡曲は500円、ジャズとクラシックは1,000円と驚愕の安さ。

アメリカ製の真空管ラジオ



## 映画をリスペクトしたデザイン

店の看板は、映画『CALLE 54』のDVDとお気に入りのレコードジャケット数点を渡して、デザインしたもの。現在、オリジナルステッカー(300円)も販売している。



Music & Bar  
calle 5411

静岡県沼津市大手町 5-4-11 B1F TEL 055-919-3048  
営業時間: 17:00~24:00 定休日: 日・月曜  
※営業時間・定休日についての最新情報はSNSをご確認ください  
<http://www.calle5411.com/>

(株) 電気堂

静岡県沼津市町方町52 TEL 055-962-2880  
営業時間 10:00~18:00 定休日: 水曜  
<http://www.denkido.net/>

## 編集後記



「五感で感じる」というテーマではじまった、まちなか商業の魅力発見BOOK、第2号は、「音」にフォーカスしました。それぞれの個店の音に耳を澄まし、いつもとは違う個店の魅力に気付くきっかけになれば幸いです。音は、「楽音」と「騒音」に分けることができます。と「騒音」とは楽器の音のように規則正しくして一定の「楽音」とは楽器の音のように規則正しくして一定の周期で続く音。「騒音」とは不規則な振動、あるいは互いに無関係な周期の振動が同時に起こっている音。とすると、まちなかの音は、「騒音」に分類されますが、様々な音が意図せず重なり「まちなかの音」を作り出していると思うと、ただ騒がしいだけでなく、このまちなかの個性的魅力ある音に感じられて、なんだか楽しい気分になってきます。このまちなかの音、どんな風に聞こえるでしょうか。五感を研ぎ澄まして、まちなかを歩いてみよう。

NUMAZU まちの感触 vol.2

2021年3月25日発行

発行 沼津市商工振興課

〒410-8601 静岡県沼津市御幸町16-1

制作進行

アートディレクション・デザイン

撮影

イラスト

取材・執筆

増田陽一 (SBSプロモーション沼津支社)

大木真実 (NUMAZU DESIGN CENTER)

磯村拓也

大嶽りや (Lib.)

小林紀子

増田都佳佐

森岡まこば

## 本誌制作 地域CREATOR のまちなかの音



毎月第一金曜日になると商店街からアントニオ猪木のテーマが聞こえていた。各店舗の前に売り出し商品を置いた「金一」というワゴンセールだ。レシートが抽選券になっていて、当時は身長ほどあったと思う巨大なガラガラを回す事ができた。当選すると商店街中にそのアナウンスが響き渡り、少し誇らしくなったのが懐かしい。

磯村拓也



毎日、商店街を歩いてオフィスに向かいます。朝は、ガラガラと一齐にお店のシャッターがあき、開店準備の音がまちに淡々と響き渡っています。早朝の静けさから、一気に活気づく朝の商店街の音が好きです。まちなかにもっと植栽が増えると、朝の鳥のさえずりも聞こえたりするのでしょうか。

大木真実



大都会のような喧騒はなく、山の中ほど静かでもなく、信号が青になった音が横断歩道に響き、時折遠くでトンビの鳴き声が聞こえる。どちらかという、雑多な喧騒が好きだと思っていたけれど、どういう訳か今の自分にちょうど良い音が日々流れているように思います。

大嶽りや



狩野川の上空と水面に燃えるような夕陽が映り、街並みの向こう側から淡紫色の夕間がやってくる時。行政無線からザラザラした音質のチャイムが流れてくると、懐かしいような、せつないような気持ちで心がキュンとします。沼津でのマジックタイムは、私にとって特別な瞬間です。

小林紀子



土地勘なし、知り合いもない状態でスタートした沼津での生活。商店街に響く呼び込みの声が温かく、ほっとしたのを覚えています。10年経った今でも変わらず元気をいただいています！ 今回の取材で感謝の気持ちを直接伝えることができ嬉しかったです。

増田都佳佐



「ドーン！」夏の風物詩、まちなかを流れる狩野川が誇る「沼津夏まつり/狩野川花火大会」。夏まつりと人が織り成す、熱気に圧倒された2日間。またいつか訪れる日を「ビュー！」と強風が吹き荒れがちな、打上げ会場極近な御成橋から願っている今日この頃です。

増田陽一



「音」と言って思い出すのが門池公園です。池の周りを歩いている時に聞こえる水の音、飛来する水鳥の鳴き声が好きです。そこに公園で遊ぶ子どもたちの声や木々の葉ずれの音が重なると…。音で癒される、まちなかのリラクゼーションスポットです。

森岡まこば